

静岡県定置網漁業協会総会で特別講演が行われる

平成 21 年 4 月 22 日に伊東市の暖香園会議室で静岡県定置漁業協会の総会が開催され、総会に続き特別講演が行われました。これは社団法人静岡県定置漁業協会が企画したもので、若手も含め多くの漁業者が出席する総会の折に、定置網漁業者の技術や意識の向上のために毎年開いているものです。当日は、県内の定置網漁業者をはじめ系統団体から関連漁具メーカーにいたるまで 62 名の参加がありました。

今回のテーマは、「定置網漁業導入による途上国漁村の振興と沿岸漁場管理」で、東京海洋大学の有元貴文先生、馬場治先生、武田誠一先生から講演があり、先生方の活動を現地まで行って支えた氷見市漁業協同組合の定置網漁業者の浜谷忠さんと浜野功さんも体験談を話してくれました。

この活動の発端は、2002 年に氷見市で開かれた世界定置サミットがきっかけで、まずタイのシャム湾で定置網を張ることになったそうです。タイでは定置網を張ることに対する抵抗もあったようですが、沖合の網漁業に対抗するためにも沿岸に核となる漁業が必要であるため、定置網を張ることになったようです。100～200 万円と日本では考えられない安い経費で網の製作に取りかかったのですが、氷見の浜谷さん、浜野さんという技術を持った援軍が来て漁獲が倍増したようです。獲れた魚は自分たちで浜に売り場を作り、氷を使うようになって平均魚価が 15 パーツから 30 パーツに上がったそうです。

次にインドネシアで現地の水産高校の協力も得て定置網を展開したのですが、潮が速かったり、現地の方がタイほど積極的でなかったりと苦戦しているようです。

しかし、アジアで定置網が脚光を浴びているのは事実であり、伊豆の定置網で働く若手漁業者にも、希望と誇りを与えてくれる話でした。



総会の様子

特別講演の様子

(御宿昭彦)